

銀河レポート401

No.63
8月号

発行日：令和2年8月1日
編集＆発行：四日市市立博物館
プラネタリウム
電話：059-355-2700

そらんば四日市

検索

8月の星空

夏の大三角

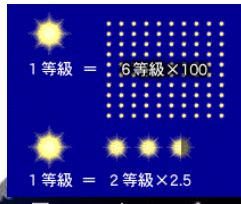
頭の真上近くにとこ座のベガ、わし座のアルタイル、はくちょう座のデネブの三つをつないでできる夏の大三角が見つかります。そのうちデネブとアルタイルは1等、ベガは1等よりもさらに明るい0等の星です。

2より1、1より0というように、星は1等級高くなると、およそ2.5倍明るくなります。

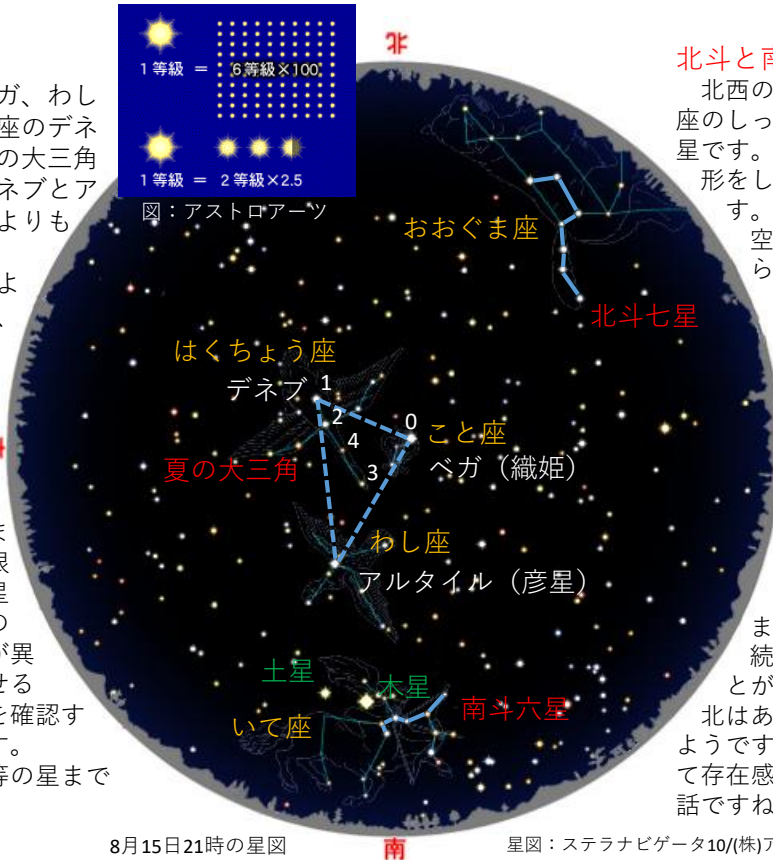
何等の星まで見える？

はくちょう座のおしりにあたるデネブから、くちばしのアルビレオまでの一直線で、星の明るさを知ることができます。デネブは1等、首のつけ根の星が2等、くちばしの先の星が3等、首のちょうど真ん中の星が4等と、1等ずつ明るさが異なります。つまりベガも合わせると、0等から4等まで明るさを確認することができる注目の場所です。

みなさんの家の近くでは何等の星まで見えるでしょうか。



図：アストロアーツ



8月15日21時の星図

星図：ステラナビゲータ10/(株)アストロアーツ

北斗と南斗

北西の空に沈もうとしているおおぐま座のしっぽの部分は、かの有名な北斗七星です。北の空にあるひしゃく(斗)の形をした七つの星という意味があります。そんな北斗七星に対して、南の空には南斗六星が輝きます。こちらは、黄道12星座の一つである、いて座の弓の部分にあたります。北斗七星ほど明るい星の並びではないため、あまり名前を聞くことはありませんが、古代中国では北斗七星と同じく重要な意味を持ちました。

北斗七星は死神、南斗六星は長寿の神とする伝説があります。ある漫画の影響で、しっかりとこのイメージがついている世代の方もいるかもしれませんが、陸続きの北側から国が滅んでいくことが多くありました。そのためか、北はあまり良い方角とはされなかったようです。でも、長寿の神の方が小さくて存在感が薄いなんて、なんだか残念な話ですね。

伝統的七夕

今年の8月25日(火)は旧暦7月7日にあたり、伝統的七夕と呼ばれます。この日は夏の空高くに織姫と彦星、二つの星を見ることができ、七夕を感じるには絶好のチャンスです。博物館でもさらに号観望会を実施します。大きな望遠鏡で、織姫と彦星を見てみましょう。

また、ミュージアムショップで販売している期間限定プラネタリウム観望ギフト券には短冊がつきます。願い事を書いた短冊をコスミックギャラリーに飾り、伝統的七夕を楽しんでみませんか？



8月のガリレオ教室

流星のひみつ

毎年お盆の頃には、ペルセウス座流星群が活発になります。流星群はその名の通り、短い時間の間にたくさん流星が見られる現象のことです。そんな流星のひみつについて、一緒に考えてみましょう。

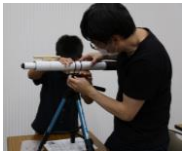


日時：8月9日(日)
11:00~11:20
14:00~14:20
場所：1階 講座室(定員40名)
料金：無料

コスミックスクール報告

天体望遠鏡を作って月の観察をしよう

7月25日(土)に実施したコスミックスクールでは、口径5cmの天体望遠鏡を組み立てました。手作りとはいえなかなか大きく、制作中苦労している様子が見られました。使いこなすにはまだまだ練習が必要ですが、今回作った望遠鏡が今後の天文ライフの良き相棒になることを祈ります。



★★観望会★★



《博物館主催さらら号観望会》

場所：博物館前市民公園
◇8月22日(土) 19:00~20:30 「木星と土星を見よう」
◇8月25日(火) 19:00~20:30 「七夕の星たちを見よう」

《博物館主催流星群観望会》

場所：伊坂ダムサイクルパーク管理事務所付近
◇8月12日(水) 19:00~21:00 「ペルセウス座流星群と夏の星空」

※天候不良時は中止です。
※当日受付・参加無料です。
※マスク着用、手指消毒、観望会受付票の記入をお願いいたします。

8月の月

4日 満月
12日 下弦
19日 新月
26日 上弦

編集後記

日本には織姫様を祀った神社が多数あります。三重県の松阪市にある星合神社もその一つです。星合とは旧暦7月7日の夜、牽牛星と織女星が出会うことを言います。天文行事の中でも最も身近な七夕。本来の伝統的七夕の日にごそ、みんなで空を見上げてみませんか？